

## ◎「ウクライナ支援」 News Letter (5)

2022年6月20日  
ミッション・宣教の声  
黒田 禎一郎

愛する皆様

ウクライナ東部において激しい戦闘が続いています。国連事務総長アントニオ・グテーレス氏は、「戦争は数年かかるかも知れない」と発言しましたが、現在のところ出口が見えない泥沼状態です。どうぞ忍耐を持ってお祈り願います。

### 1. 強制連行

オランダ・ハーグにある国際刑事裁判所はウクライナ住民の強制移住を、組織的住民殺害と並ぶ「人道に対する犯罪」と位置付けています。ウクライナ住民の強制連行が実証されれば、ロシアは戦争犯罪として追訴されることとなります。ウクライナ側（大統領府ミハイロ・ポドリャク顧問）発表では、「ロシアはこの21世紀に数十万人ものウクライナ人を連行し、ジェノサイド（集団殺害）を続けている」と声明を出しました。強制連行が起こっている疑いは濃厚で、少なくとも住民数万人は連行されているようです。

ロシアに連れて行かれたウクライナ住民は、ロシア情報機関が運営する新露派地域の「選別収容所」に平均し約3週間滞在させられます。その場で「激戦地での死」か「ロシアに行くか」の選択を迫られます。つまり彼らの運命が決まります。英国BBCロシア語版は6月17日、選別収容所では、ロシア軍側がスパイ行為など不審な行動を取ったと判断すれば、住民への電気ショックを使った拷問も行われていると報じました。英国メディア「iNews」は北方領土と千島列島を含むサハリンやカムチャッカなど少なくとも66か所に連行されたウクライナ人約1万人が収容されていることを確認したと報じました。

### 2. プーチン露大統領

ロシアが戦争犯罪を強く疑われる行為を続ける背景には、歴史的には一体であったと主張しウクライナの主権を認めないプーチン・ロシア政権の国家観があります。プーチン大統領はロシアの前身、旧ソ連の独裁者スターリンを尊敬しています。スターリンはかつて「敵性民族」や「危険分子」と認定した住民の少なくとも約300万人をシベリアに強制移住させました。そして数えきれないほど多数のクリチャンとユダヤ人が強制労働を強いられ命を落としました。今

ロシアはかつての旧ソ連時代スターリンに戻りつつあります。あの恐ろしい歴史的事実が再現しないことを切に願います。どうぞ祈り覚えてください。

### 3. 献金&救援物資状況

このような混迷深めるウクライナ情勢下で、「ミッション・宣教の声」はドイツ経由とルーマニア経由の2本のチャンネルで、愛の献金を避難民と現地の聖徒たちに届けています（すでに3度送金）。下記の写真はルーマニアからの救援物資で、各箱には「日本からの愛の贈物」と記載されています。



以上の写真は「プロジェクト・ルツ」のボランティアと救援物資です。どうぞ、つづいてお祈りのご支援をお願いします。

※この News Letter は不定期発行です。メールをお持ちの方で差し支えない方はお知らせください。皆様の祈りのご支援に感謝します。